教員名	山下耕平	所属	生活科学科 食物栄養専攻	職名	教授	学位	博士(農学)・MBA
最終学歴	平成 13 年　九州大学大学院農学研究科食糧化学工学専攻博士後期課程修了 平成 21 年　オックスフォード大学サイードビジネススクール（Saïd Business School）MBA 課程修了						
研究分野・テーマ	食品の機能性に関する研究、ルーブリックによる授業評価の検討						
学会活動	日本栄養食糧学会、日本食品科学工学会						
研究成果の公表	【著書】 1）最新食品学　総論・各論　第 5 版（共著）講談社. 2021 年 【学術論文】 1）ルーブリックを用いた実験レポートの評価（単著）精華女子短期大学研究紀要．第 46 号．47～53 頁．2020 年 2）機能性パン作りに関する研究（共著）精華女子短期大学研究紀要．第 42 号．41～43 頁．2016 年 3）食物アレルギーとその対応食について（共著）精華女子短期大学研究紀要．第 39 号．27～33 頁．2013 年 4）Epidemiological study of lgE antibodies among junior high school students in Wakayama，Japan，by using a solid phase multiple technology.（共著）Proceedings of the 28th Symposium of the Collegium lnternationale Allergologicum(CIA),63-65. 2012 5）同時多項目アレルゲン特異 lgE 測定試薬について（単著）アレルギーの臨床．28 巻 4 号．70～77 頁．2008 年 【公開特許】 1）クロマトグラフィー分析用ストリップ及びその製造方法（共同出願）特開 2009-258094．2009 年 2）積層体を切断する方法及びそれを用いたストリップの製造方法（共同出願）特開 2009-131948．2008 年 3）クロマトグラフィー分析用ストリップの製造方法（共同出願）特開 2009-258095．2009 年 【学外活動】 1）「野菜の色素を使った科学実験（小中学生対象）」（南区出前講座、福岡市南区区政推進部企画振興課、2021 年 12 月） 2）内閣府食品安全モニター員（2016 年 4 月～）						

	3)「食品添加物について（小中学生対象)」(南区出前講座、福岡市南区区政推進部企画振興課、2019 年 8 月） 4)「食品添加物について」(南区出前講座、福岡市南区区政推進部企画振興課、2018 年 9 月） 5) KBC テレビ「めんたいワイド」への出演　ライスミルクの効用について（2015 年 2 月放映） 6) TNC テレビ「ももち浜ストア」への出演　土用の丑（うなぎ）について（2015 年 7 月放映） 7)「食物アレルギーってなんだろう？」(南区公開講座、福岡市南区区政推進部企画振興課、2013 年 3 月） 8)「水耕栽培による機能性植物、食事療法用植物栽培の実用化に向けた研究」(生物機能研究所、九州大学農学部、株式会社果実堂、九州産業技術センターとの産官学共同プロジェクト、2012 年 4 月～2013 年 3 月）

教員名	朝木　徹	所属	幼児保育学科	職名	教授	学位	児童学修士
最終学歴	平成 20 年　聖徳大学大学院児童学研究科修士課程修了						
研究分野・テーマ	保育学・幼児教育学、保育者効力感に関する研究						
学会活動	日本教育心理学会・日本学校心理士会・日本カウンセリング学会・日本キャンプ協会・日本レクリエーション協会（資格取得：保育士・公認心理師・学校心理士）						
研究成果の公表	【著書】 ・『子どもと保育者でつくる人間関係-「わたし」から「わたしたち」へ-』編者：横山真貴子（共著）教育情報出版　2017 年 3 月、第 4 章 1 節（子どもとの関係を築くために）第 9 章 1 節（4 歳児の人間関係の発達）の分担執筆 ・『保育内容総論-生活・遊び・活動を通して育ちあう保育を創る-』編者：太田光洋（共著）同文書院　2019 年 4 月、第 2 章（保育の基本と保育のあり方）の分担執筆 ・『保育ニュー・スタンダード　子育て支援 - 保育者に求められる新たな専門的実践 - 』編著者：太田光洋（共著）同文書院　2022 年 1 月、第 6 章（保育所等における支援）分担執筆 ・『子ども家庭支援論－子どもを中心とした家庭支援－』編者：七木田敦、上村眞生、岡花祈喜一郎　教育情報出版　2022 年 1 月、11 章 1 節（保育の専門性を活かした子ども家庭支援とその意義）、11 章 3 節（子どもと保育士、保護者との関係性の問題）分担執筆 ・『保育ニュー・スタンダード　子ども家庭支援論 - 保育を基盤とした子ども家庭支援 - 』編者：太田光洋（共著）同文書院　2022 年 11 月、第 5 章（保育者に求められる基本的役割と姿勢(保護者及び地域が有する子育てを自ら実践する力の向上に資する支援)）分担執筆 ・『新・保育内容総論　保育って，おもしろい』編者：前田和代　教育情報出版　2022 年 8 月、1 章 2 節（「領域」をどう捉え、どう実践につなげるか）、9 章 2 節（なぜ、保護者や地域・関係機関との連携が必要なのか）分担執筆 【論文】 ○子どもの人間関係を育む保育実践の要因-保育者効力感と子ども観の関連について-（共著）聖徳大学児童学研究所第 11 号　2009 年 3 月 ○保育者志望学生の学習意欲の検討 - 保育者効力感と不合理な信念に着目して -（共著）精華女子短期大学研究紀要第 37 号 2011 年 3 月 ○保育者養成校における保育実習指導内容の検討 - 現場の保育者が実習生に求める保						

育技術を通して‐（共著）精華女子短期大学研究紀要第 38 号 2012 年 3 月
○保育者養成校における保育実習指導内容の検討Ⅱ‐保育所実習Ⅰにおける学生自己評価と実習園評価の比較を通して‐（共著）精華女子短期大学研究紀要第 39 号 2013 年 3 月
○保育者養成校における保育実習指導内容の検討Ⅲ‐学生自己評価と実習園評価の比較に基づく段階的自己評価指標（試案）の提言‐（共著）精華女子短期大学研究紀要第 40 号 2014 年 3 月
○精華女子短期大学生の学びと学生生活に関する研究‐在学時調査及び卒業後調査より‐（共著）精華女子短期大学研究紀要第 41 号 2015 年 3 月
○保育者養成校における保育実習指導内容の検討Ⅳ‐実習事前指導の段階的自己評価指標の活用を通して‐（共著）精華女子短期大学研究紀要第 41 号　2015 年 3 月
○幼児教育と小学校教育の連携の在り方‐小学校教諭の「幼稚園・保育所の保育者に求める内容」の検討を通して‐ 精華女子短期大学研究紀要第 41 号　2015 年 3 月
○初年次教育における対人関係ゲーム・プログラムの試み‐保育者志望学生の友人関係に着目して‐精華女子短期大学研究紀要第 42 号　2016 年 3 月
○保育所実習を通した絵本の読み聞かせ体験の検討‐保育現場における絵本の意味‐（共著）精華女子短期大学研究紀要第 42 号　2016 年 3 月
○幼児教育と小学校教育の連携の在り方Ⅱ‐保育者の「小学校教諭に求める内容」の検討を通して‐精華女子短期大学研究紀要第 43 号　2017 年 3 月
○子どもの第一反抗期の育児に関する研究‐育児における大変さや困りごとを感じる場面について‐精華女子短期大学研究紀要第 44 号　2018 年 3 月
○地域の子育て支援活動を通した保育者志望学生の学び‐親子のふれあい遊び実践の振り返りを通して‐精華女子短期大学研究紀要第 45 号　2019 年 3 月
○子育て相談に求められる担任保育者の要因‐保育者志望学生の視点からみえてくる促進・阻害要因に着目して‐精華女子短期大学研究紀要第 46 号　2020 年 3 月
○保育実践が保育者志望学生の保育方法や子どもとのかかわりに及ぼす影響
（共著）精華女子短期大学研究紀要第 47 号　2021 年 3 月
○保育者養成校における保育実習指導内容の検討Ⅴ‐新型コロナウィルス感染拡大防止下の実習指導の実際‐（共著）精華女子短期大学研究紀要第 48 号　2022 年 3 月

【学会発表】
○幼稚園・保育所でのお手伝い内容の検討（共著）日本学校心理士会 2009 年大会　2009 年 8 月
○保育者養成課程学生のビリーフ検討 2‐保育者効力感に着目して‐（共著）日本教育心理学会第 52 回大会　2010 年 8 月
○幼稚園・保育所でみられる子どものお手伝い内容の検討‐現職保育者と保育者志望学生のお手伝い依頼意識の比較‐日本カウンセリング学会第 44 回大会　2011 年 9 月
○実習生が保育現場から求められる保育技術の検討‐保育所実習Ⅰにおける縦断的調

	査を通して‐日本教育心理学会第 54 回総会　2012 年 11 月 〇学生の保育者として働く自信の検討‐保育所実習Ⅰ前後の意識変化を通して‐日本カウンセリング学会第 48 回大会　2015 年 8 月 〇乳幼児期における第一反抗期の時期　日本カウンセリング学会第 50 回記念大会 2018 年 9 月 【講演】 ・千葉市教育センター専門研修講座「一人ひとりの子どもが生き生きと過ごせる楽しい学級づくり」等 2008 年 8 月～2023 年 8 月（継続中） ・相模原市体育協会グループ共同事業体「パパのための子育て講座‐男性保育士に学ぶスポーツを通じた子育て方法‐」2011 年 10 月 ・福音ルーテル教会　大岡山幼稚園「心と体を育てる子育てのヒント」2012 年 10 月 ・筒井保育所「子どもの褒め方・叱り方」2013 年 1 月 ・大和保育所「甘えと甘やかし・怒ると叱る、どう違う？」2013 年 2 月 ・ポピンズ国際乳幼児教育研究所「平成 27 年度埼玉県子育て支援員研修 一時預かり事業と保育」2015 年 12 月 ・大野南保育所「子どもとのかかわりで大切にしたいこと‐ほめ方・叱り方のヒント‐」2014 年 1 月 ・福岡市南区公開講座「自我の芽生えを大切にした子育てのヒント」2015 年 3 月 ・北部九州 2016 ルーテル幼保連　夏期研修会「気になる子どもから保育を考える」2016 年 8 月 ・大野城市子育て支援センター事業　親子遊び・リーダー養成講座「子育て支援に関わる者としての心構え－親子のふれあいを大切に」2016 年 10 月 ・大岡山幼稚園園内研修「特別な支援を要する子どもとのかかわり」2016 年 12 月 ・筒井保育所「子どものほめ方・しかり方のヒント」2017 年 1 月 ・北部九州 2017 ルーテル幼保連　夏期研修会「気になる子どもから保育を考える」2017 年 8 月 ・柳瀬保育園園内研修「保育所保育指針（改正版）についての理解」2017 年 11 月 ・虹の森保育園「乳幼児期の親子のかかわり」2018 年 1 月 ・大野城市れいわ子ども情報センター　親子遊び・リーダー養成講座「子育て支援に関わる人の心構え」2020 年 7 月 ・小郡市保育協会 保育士キャリアラダー研修「養護と教育及びアタッチメントに関する研修‐子どもとのアタッチメント形成のために‐」2022 年 6 月 ・福音ルーテル教会大岡山幼稚園　園内研修　第 1 部「子どものいろいろな発達障害についてとその理解、その関わりについて」他 2022 年 8 月 ・味坂保育園　園内研修「養護の視点を大切にした保育実践のあり方‐子どもとのアタッチメント形成のために‐」2022 年 9 月

	【社会活動】 ・幼児教育現場における教育相談・発達心理相談 2007 年 11 月～（継続中）福音ルーテル教会　大岡山幼稚園（教育相談） 2016 年 5 月～（継続中）学校法人福岡ルーテル学園　恵泉幼稚園（発達心理相談） ・福岡県「認定こども園」教育・保育内容等に関するアドバイザー 2020 年 12 月～（継続中）福岡県福祉労働部子育て支援課 ・福岡県春日市子ども・子育て会議委員 2022 年 4 月～（継続中）福岡県春日市福祉支援部こども未来課

教員名	元田幸代	所属	幼児保育学科	職名	准教授	学位	教育学修士
最終学歴	平成 10 年　福岡教育大学教育学研究科家政教育専攻修了						
研究分野・テーマ	家政教育・保育者を目指す学生を対象とした家政教育						
学会活動	日本家政学会、日本図学会、日本教育工学会						
研究成果の公表	学術論文 １）「保育者養成校における保育実習指導内容の検討Ⅱ －保育所実習Ⅰにおける学生自己評価と実習園評価の比較を通して－」（共著），精華女子短期大学研究紀要 第 39 号,2013 年 3 月 資料 １）「教育実習（指導実習）に向けての実習指導について」（単著）精華女子短期大学研究紀要 第 46 号,2020 年 3 月						

教員名	三好　伸幸	所属	幼児保育学科	職名	准教授	学位	修士 （スポーツ健康科学）
最終学歴	福岡大学大学院スポーツ健康科学研究科スポーツ健康科学専攻 博士課程後期　単位取得後満期退学						
研究分野・テーマ	応用健康科学、運動生理学、予防医学・身体活動に関する運動生理学的研究、 子どもの体力に関する研究						
学会活動	日本体力医学会・日本肥満学会・日本健康支援学会						
研究成果の公表	（学術論文） 1）児童の持久走に対する意識変容と体格・体力・学力に関する縦断的研究. ランニング学研究 23(2)：pp1～9，2012（共著）【査読付】 2）非アスリートの食事内容自己選択型グリコーゲンローディングにおける糖質摂取量筋グリコーゲンの変化. ランニング学研究 25(2)，2014（共著）【査読付】 3）Estimation of thigh muscle cross-sectional area by single- and multi-frequency segmental bioelectrical impedance analysis in the elderly. Journal of Applied Physiology : Vol. 116 Issue 2, p176-182，2014（共著）【査読付】 4) Factors Associated With Non-participation in a Face-to-Face Second Survey Conducted 5 Years After the Baseline Survey. J Epidemiol 25:117-125，2015（共著）　【査読付】 5) Intensity-specific effect of physical activity on urinary levels 8-hydroxydeoxyguanosine in middle-aged Japanese. Cancer Science Vol.107 no.11 1653-1659，2016（共著）　【査読付】 6) Coping strategy and social support modify the association between perceived stress and　C-reactive protein: a longitudinal study of healthy men and women. Stress 21(3):237-246，2018　（共著）【査読付】 7）高齢運転者における運転不安と認知機能の関係. 健康支援 21（1）：pp19～27，2019（共著）【査読付】 8）教育実習における評価表データを活用した指導の検討. 精華女子短期大学研究紀要 45:pp1~10，2019（共著） 9）Habitual Light-intensity Physical Activity and ASC Methylation in a Middle-aged Population. International journal of sports medicine　40(10)： 670－677，2019（共著）【査読付】 10）幼児の遊び場所の違いが運動機能の発達に与える影響. 精華女子短期大学研究紀要 47:pp9~15，2021（単著） 11）Association between habitual coffee consumption and skeletal muscle mass in middle-aged and older Japanese people.						

	Geriatrics & gerontology international　21/10：950-958 ，2021（共著）【査読付】 12）Association of appendicular extracellular-to-intracellular water ratio with age, muscle strength, and physical activity in 8,018 community-dwelling middle-aged and older adults. Archives of Gerontology and Geriatrics 108 (2023) 104931，2023（共著）【査読付】 13）Dose-response relationship between daily step count and prevalence of sarcopenia: A cross-sectional study. Experimental Gerontology　Volume 175, May 2023, 112135，2023（共著）【査読付】 （その他） 1）教育実習サブテキスト．コロニー印刷，2019（共著）

教員名	宮本　幸	所属	幼児保育学科	職名	准教授	学位	修士（保健医療学）
最終学歴	2013 年　国際医療福祉大学大学院修士課程保健医療学専攻修了						
研究分野・テーマ	臨床現場で行っている障がい児・精神科・高齢者領域の音楽療法を中心とし、作業療法の視点を含め、対象者にとっての音・音楽の効果の臨床的研究。既成曲の未知と既知が人におよぼす心理学的・生理学的影響の基礎データ収集と解析。						
学会活動	(社)日本作業療法士協会、日本音楽療法学会、日本医療保育学会、日本音楽教育学会						
研究成果の公表	(著書)　『基礎から学ぶ音楽療法』(共著) 2014 年 10 月,海鳥社出版　2018 年 4 月増補改訂版、2023 年 3 月再改訂版 (学術論文) 1)集団歌唱における伴奏法について　『西日本芸術療法学会誌』№28,2000 年 6 月 2)集団歌唱における伴奏法-間奏及び前奏・後奏-　『西日本芸術療法学会誌』№29,2001 年 6 月 3)療法的視点における重症心身障害児・者のための音楽活動（共著） 第 33 回明日への療育研究報告書　2005 年 3 月 4)施設実習における現状と課題～学生の意識と実際の評価～(共著) 精華女子短期大学紀要第 45 号,2019 年 5 月 5)施設実習における現状と課題Ⅱ～施設保育士に関するイメージの涵養と実習への動機づけについて～(共著) 精華女子短期大学紀要第 46 号,2020 年 3 月 6)施設実習における現状と課題Ⅲ～学外実習を主軸としたコロナ禍での実習指導のあり方～(共著) 精華女子短期大学紀要第 48 号,2022 年 3 月 (学会発表他) 1)集団歌唱における伴奏法について　第 28 回西日本芸術療法学会,香川,1999 年 6 月 2)集団歌唱における伴奏法-間奏及び前奏・後奏-　第 29 回西日本芸術療法学会,宮崎,2000 年 6 月 3)療法的視点における重症心身障害児・者のための音楽活動 第 33 回明日への療育研究報告会,東京,2005 年 1 月(共同) 4)音楽療法士の質の向上への一提案～医療職とのカリキュラム比較から見えてきたこと～ 第 7 回日本音楽療法学会学術大会,札幌,2007 年 9 月 5)地域在住の中・高齢者における音楽療法教室の取組報告						

	第 13 回日本音楽療法学会学術大会,米子,2013 年 9 月(共同) 6)既成曲の既知と未知が人におよぼす心理学的・生理学的影響について 第 16 回世界作業療法士連盟大会・第 48 回日本作業療法学会（同時開催）横浜,2014 年 6 月 7)地域在住の中・高齢者における音楽療法教室の取組報告(その 2)～音楽療法教室 3 年間のまとめ～ 第 15 回日本音楽療法学会学術大会,札幌,2015 年 9 月 8)療法的視点における重症心身障がい児のための音楽活動－手指の握りに変化が見られた後の 10 年間－ 第 21 回 日本医療保育学会,栃木,2017 年 6 月 9)精神科領域の集団プログラムにおける音楽活動の活用と意味 Musical activity in psychiatric populations program utilization and mean 第 15 回世界音楽療法大会 第 17 回日本音楽療法学会学術大会（同時開催）,つくば,2017 年 7 月 10)音楽を通して広がる子どもの育ち　保育リカレント講座 精華女子短期大学,2018 年 11 月 11)言語と歩行の著しい発達の遅れを示した障がい児への音楽活動の報告 第 23 回 日本医療保育学会,宮城,2019 年 6 月 12)地域健康教室での音楽活動の実際 自主シンポジウム『生涯学習の場に包含される高齢者の音楽療法』における話題提供 第 19 回日本音楽療法学会学術大会,大阪,2019 年 9 月 13)研究ノート「施設実習における現状と課題Ⅲ～コロナ禍での変化と対応～」(共著) 精華女子短期大学紀要第 47 号,2021 年 3 月 14)シンポジウム：専門療育～ことばの促し～　第 9 回日本ことば療法学会 IN 福岡,2022 年 6 月 15)半年に一度の音楽療法的活動の 20 年間に渡る長期継続を可能にした要因とその意味 第 22 回日本音楽療法学会学術大会,広島,2022 年 9 月

教員名	古林　ゆり	所属	幼児保育学科	職名	講師	学位	修士（教育学）
最終学歴	平成 10 年　福岡教育大学大学院教育学研究科障害児教育専攻修了						
研究分野・テーマ	幼児教育学・保育環境学 1)　「乳幼児期の話し合い活動」が子どもに及ぼす影響とその質的変容、保育者の役割について保育実践を分析検討し、研究を行っている。 2)　保育内容「環境」において、学生が授業内で理解を深化させていくためには、どのような保育実践を教材とすることが良いかについて、保育実践検討を分析検討し、研究を行っている。 3)　保育者の保育実践力の形成が保育の中でどのようにして形成されていくのかについて、保育観察や実践検討、保育者へのアンケートを通して分析検討し、研究を行なっている。 4)保育者養成校における実習の意義・方法について、学生へのアンケートを通して分析し、研究を行なっている。 5)保育者養成校における実習の意義・方法について、実習日誌に対する指導方法について、保育現場の保育者のアンケート結果を通して分析し、研究を行なっている。						
学会活動	日本保育学会 日本保育者養成教育学会　全国保育問題研究会						
研究成果の公表	著書 1）「書き方・あそび・保育のコツがわかる　実習の日誌と指導案のサポートブック」（共著），ナツメ社,日誌と指導案の書き方第 3 章　日誌と指導案の書き方「0 歳児クラス」（P.46～P.57）「1 歳児クラス」（P.58～P.69）「異年齢児クラス」（P.154～P.161）2016 年 5 月 2）「０～5 歳児年齢別　実習の日誌と指導案　完全サポート」（単著），新星出版社，2017 年 6 月 3）「保育っておもしろい！ブックレット　ワクワクドキドキ身体づくり」（共著）,かもがわ出版, 2018 年 9 月 1 日 4）「０～６歳よくわかる子どもの発達と保育の本」（共著）,池田書店,2019 年 1 月 25 日 5）「施設実習サブテキスト　2019 年度版」（共著）,コロニー印刷 ,2019 年 9 月 6）「からだあそび１４５選　愉しくなければあそびじゃない」（共著）,かもがわ出版、2020 年 5 月 7）「非認知能力が育つこれからの保育」（共著）,池田書店 ,2021 年 1 月 25 日 8）「保育所&幼稚園　実習の記録と指導案　まるごと BOOK」（共著）,株式会社 KADOKAWA、2021 年 7 月 9）「保育の現場で使える文章と言葉かけ」（共著）,池田書店、2022 年 1 月 10)「私たちは生きる　災害から子どもたちの命を守るために」（共著）,新読書社、2023 年 6 月 30 日 論文 1）「幼児期における話し合い活動の質的変容」（共著）,筑紫女学園大学研究紀要,第 12 号別版,2017 年 1 月 2）「保育内容「環境」の理解の深化を目指して～協同的遊び「ふゆまつり」の実践検討を通して～」（単著），精華女子短期大学紀要，第 44 号，2018 年 3 月 3）「保育内容「環境」の理解の深化を目指して②～製作遊び「ちょうちんづくり」の実践検討を通して～」（単著），精華女子短期大学紀要，第 45 号，2019 年 5 月 4）施設実習における現状と課題～学生の意識と実際の評価～（共著），精華女子短期大学紀要,						

	第 45 号，2019 年 5 月 ５）「保育実践力とは～保育実践における子供を捉え直す力の育ちの検討～」（共著），精華女子短期大学紀要，第 46 号，2020 年 3 月 6)「施設実習における現状と課題Ⅱ～施設保育士に関するイメージの涵養と実習への動機づけについて～」　（共著），精華女子短期大学紀要，第 46 号，2020 年 3 月 7)「施設実習における現状と課題Ⅲ～学外実習を主軸としたコロナ禍での実習指導のあり方～」（共著），精華女子短期大学紀要，第 48 号，2022 年 3 月 その他（依頼原稿） １）「場面例から考える　保育の見直し　0・1・2 歳　」（単著）,はぐキッズ秋号,2019 年 1 月 8 日 ２）「思考し続け、歩みを止めない」（単著）,季刊保問研 303 号，2020 年 6 月 ３）研究ノート「施設実習における現状と課題Ⅲ～コロナ禍での変化と対応～」（共著），精華女子短期大学紀要，第 47 号，2021 年 3 月 4)研究ノート「保育実践力とはⅡ～場面記録に見る保育学生の実習の困り感と変化する子ども像～」（単著），精華女子短期大学紀要，第 49 号，2023 年 3 月

教員名	志方 亮介	所属	幼児保育学科	職名	講師	学位	博士（心理学）
最終学歴	令和３年　九州大学大学院人間環境学府　人間共生システム専攻 臨床心理学指導・研究コース　博士後期課程 修了						
研究分野・テーマ	研究分野：臨床心理学、生涯発達学、特別支援教育学 テーマ：「アクションメソッドを用いた生涯発達支援」						
学会活動	日本心理臨床学会、日本カウンセリング学会、日本リハビリテイション心理学会、 日本臨床動作学会、日本臨床心理劇学会（旧：西日本心理劇学会）、福岡県臨床心理士会						
研究成果の公表	【著書】 ①ふぇにっくす.75 号.2017 年 10 月.心理リハビリテイション研究所. 【主な学術論文】 ①動作法場面における自閉症児の退室行動への理解と課題の展開に関する一考察. 2016 年 1 月 九州大学総合臨床心理研究,7, 59-72. ②成人を対象とした身体意識性と悩みへの態度との関連についての研究 2016 年 9 月 リハビリテイション心理学研究,42(1), 43-57. ③重度知的障害を伴う脳性マヒ児の主体的な取り組みを促す援助 2017 年 3 月 九州大学総合臨床心理研究,8,129-139. ④青年期の自己認知と反映的自己認知の差異からみた適応様式の類型と精神的健康との関連 2017 年 3 月 九州大学総合臨床心理研究,8, 141-151. ⑤ロールテイキングの経験が自発的な対人交流の発展に繋がった衝動性が強い自閉スペクトラム症児の事例 2018 年 3 月　心理劇研究,41, 91-97. ⑥保育者養成課程における障害児保育科目を通じた学生の障害観の変化 精華女子短期大学紀要,45,59-68. ⑦施設実習における現状と課題―学生の意識と実際の評価― 精華女子短期大学紀要,45,11-20. ⑧※学生相談において肢体不自由学生に動作法を適用することの臨床心理学的意義 リハビリテイション心理学研究,45(1), 31-43. ⑨ロールシャッハ・テストにおける知覚体験と動作法における体験様式の関連 心理臨床学研究,37(5),433-444. ⑩施設実習における現状と課題Ⅱ―施設保育士に関するイメージの涵養と実習への動機づけについて― 精華女子短期大学研究紀要,46,11-20. ⑪子育て支援を想定したロールレタリングによる共感性の変化 ： 保育学生を対象にした「連絡帳ロールレタリング」の試み 精華女子短期大学研究紀要,49,1-11. ※2019 年 12 月 日本リハビリテイション心理学会研究奨励賞 受賞論文						

	【主な学会発表および学会活動】 ①リラクセイション体験が気分状態に与える影響　－生涯発達的視点から－ 2014 年 8 月 日本心理臨床学会 第 33 回秋季大会 ②身体意識性および悩みへの態度と動作法体験との関連について 2015 年 9 月 日本心理臨床学会　第 34 回秋季大会 ③精神科デイケアにおける集団動作法の導入と展開 2015 年 11 月 日本リハビリテイション心理学会　学術大会 ④認知症高齢者を対象としたグループ回想法における行為表現の意味 2016 年 9 月 日本心理臨床学会　第 35 回秋季大会 ⑤動作法における課題教示と援助様式が動作体験に及ぼす影響―テキストマイニングを用いた腕挙げ課題後の語りの分析― 2016 年 10 月 日本臨床動作学会　第 24 回学術大会 ⑥健康動作法の継続が「より良い生活」の実現にもたらす影響　-健康動作法の会における 70 歳代女性の事例から- 2016 年 11 月 日本リハビリテイション心理学会　学術大会 ⑦発達障害特性を示す児童へのグループセラピーにおける他者への積極性を活かした心理劇的アプローチの検討 2017 年 2 月　西日本心理劇学会　第 42 回学術大会 ⑧動作法による肢体不自由学生の最後の大学生活への支援 2017 年 10 月 日本臨床動作学会　第 25 回学術大会 ⑨認知症高齢者の情緒的交流をめざした回想ドラマの試み 2018 年 2 月 西日本心理劇学会　第 43 回学術大会 ⑩2022 年日本リハビリテイション心理学会 学術大会 口頭発表「音楽家の指先の動作改善について」　司会

教員名	四童子　薫	所属	幼児保育学科	職名	講師	学位	修士（教育学）
最終学歴	広島大学大学院教育学研究科文化教育開発専攻音楽文化教育学分野　博士課程後期　単位取得後退学						
研究分野・テーマ	音楽教育学　歌を記憶する際のリハーサルに関する研究、ピアノ初心者を対象とした教育方法に関する研究						
学会活動	日本音楽教育学会　中国四国教育学会　日本教科教育学会　日本音楽知覚認知学会						
研究成果の公表	（学術論文） ○「歌詞および楽譜の提示が旋律線の記憶に与える影響」中国四国教育学会教育学研究紀要、第 54 巻、pp.603-608、CD-ROM 版、2009 年 3 月 ○「歌の記憶実験における提示条件が旋律の記憶に与える影響―音楽経験の違いに着目して―」中国四国教育学会教育学研究紀要、第 55 巻、pp.627-632、CD-ROM 版、2010 年 3 月 ○「音高情報のリハーサルに関する発達的研究―中学生を対象とした実験を通して―」中国四国教育学会教育学研究紀要、第 56 巻、pp.203-208、CD-ROM 版、2011 年 3 月 ○「音高のリハーサルが音高情報の符号化に与える影響」広島大学大学院教育学研究科音楽文化教育学研究紀要、第 22・23 巻、pp.45-50、2011 年 3 月 ○「音高再生能力が旋律記憶におけるリハーサルの効果に与える影響」中国四国教育学会教育学研究紀要、第 57 巻、pp.410-415、CD-ROM 版、2012 年 3 月 ○「旋律を記憶する際の発声を伴うリハーサルが記憶成績に与える影響」西日本短期大学総合学術研究論集、第 3 号、pp.177-181、2013 年 3 月 ○「子どもの歌を伴奏する際に必要なピアノのスキルについての研究―付点リズムを含む「生活の歌」に着目して―」西日本短期大学総合学術研究論集、第 8 号、pp.127-134、2018 年 3 月 ○「保育者養成における子どもの歌を弾き歌いする際のピアノの運指指導に関する研究」西日本短期大学総合学術研究論集、第 11 号、pp.81-87、2021 年 3 月 （翻訳） ○Christina M.Hornbach, Cynthia C. Taggart 著『幼稚園から第 3 学年までの子どもの歌唱達成度と音楽的能力との関係』広島大学大学院教育学研究科音楽文化教育学研究紀要、第 20 巻、pp.197-203、2008 年 3 月 （共同発表） ○酒井勇也、四童子薫「ICT を活用した遠隔合奏の可能性（講演と演奏）」令和 2 年度日本音楽教育学会九州地区例会（Zoom によるリモート開催）、2021 年 2 月						

	○酒井勇也、四童子薫「遠隔地をつなぐ音楽表現活動の可能性－リアルタイム型遠隔アンサンブルの実演と実践からの考察－」日本音楽教育学会第 52 回大会共同企画、2021 年 10 月 ○酒井勇也、四童子薫、平山裕基「遠隔地をつなぐ音楽表現活動の可能性（2）－リアルタイム型の遠隔協働音楽制作の実演と実践からの考察－」日本音楽教育学会第 53 回大会共同企画、2022 年 11 月 （演奏発表） ○白と黒冬のコンサート part.9-24 ピアノ独奏およびピアノ 4 手連弾、2004-2019・2022、年に 1 回開催 ○Colore del Suono（コローレ・デル・スオーノ）Vol.1-4、2015-2017 年および 2019 年開催、クラシック音楽のコンサート企画および演奏

教員名	井手　裕子	所属	幼児保育学科	職名	講師	学位	修士(子ども教育)
最終学歴	令和 4 年　福岡県立大学大学院人間社会学研究科子ども教育専攻　修士課程修了						
研究分野・テーマ	幼児教育学、保育学、保育者支援						
学会活動	日本保育学会、日本乳幼児教育学会、国際幼児教育学会、九州保育研究会						
研究成果の公表	(著書) 「障がいのある子どもの保育・教育-心に寄り添う援助をめざして-」(共著), 96-102, 建白社,2020 年 2 月 (学術論文) 1)「子育て意識に関する社会文化論的分析-「上海市・北九州市」国際共同研究（1）-」(共著),『九州産業大学人間科学』第 3 巻, 24-32,2021 年 3 月 2)「子育ての社会学 ： 授業での成果報告」(共著),『福岡県立大学人間社会学部紀要』第 29 巻,第 2 号, 191-202,2021 年 3 月 3)「子育ての社会学 ： 授業での成果報告 -ドキュメンテーションを行うまでのプロセスに関する考察-」(共著),『福岡県立大学人間社会学部紀要』第 30 巻,第 1 号, 169-179, 2021 年 10 月 4)「保育者の困り感への対応における知識・技術獲得の現状と課題-課題解決のための情報収集とソーシャルスキルに着目して-」（共著）,『福岡県立大学人間社会学部紀要』第 31 巻,第 2 号,17-33,2023 年 3 月 (学会発表) 1)「子育て意識に関する社会文化論的分析-「中国・日本」国際共同研究（１）-」(共著),日本保育学会第 74 回大会,2021 年 5 月 2)「保育者の情報収集の実態から考える保育者支援」(共著),国際幼児教育学会第 42 回大会,2021 年 9 月 3)「幼稚園教諭における情報収集の困り感に着目して-インタビューを通して見えてきた多様性・同僚性とそれらを支える園文化」(共著),日本保育学会第 75 回大会,2022 年 5 月						

教員名	舩原　将太	所属	幼児保育学科	職名	講師	学位	修士（教育学）
最終学歴	九州大学大学院人間環境学府　教育学専攻　博士後期課程　単位修得退学						
研究分野・テーマ	教育学、児童福祉学。子どもの正常と異常の分割をめぐる思想史的研究。						
学会活動	九州教育学会、日本教育学会、教育哲学会						
研究成果の公表	【著書】 （共著） 「教育方法の基礎理論－原点としてのフレーベル」、池田竜介・垂見直樹編著『幼児教育・保育のための教育方法論』、ミネルヴァ書房、2021、1－12 頁。 【論文】 （単著） 「狂気・詩・「外」――日常的ディスクールを侵犯する装置」、教育基礎学研究（12）、平成 27 年 3 月。 「教室空間における道徳的矯正を支えるもの-M.フーコーの規範化 normalisation に着目して」、教育基礎学研究（16）平成 30 年 3 月。 「精神医学的権力における「子ども」の発達をめぐる知の重要性――M. フーコー「異常者たち」講義の読解を通じて」、飛梅論集（22）、令和 4 年 3 月 （共著） 「フーコー『監獄の誕生』再考」、教育基礎学研究（15）、平成 29 年 3 月。 「「身体から教育を問う」ラウンドテーブル報告論文」、教育基礎学研究（16）、平成 30 年 3 月						

教員名	新田　博司	所属	幼児保育学科	職名	講師	学位	修士（心理学）
最終学歴	九州大学大学院人間環境学府 修士課程修了						
研究分野・テーマ	発達心理学・自己に関わる認知機構の発達						
学会活動	日本心理学会、日本発達心理学会、International Congress of Infant Studies						
研究成果の公表	**【学術論文】** 1) Nitta, H., Tomita, H., Zhang, Y., Zhou, X., & Yamada, Y. (2018). Disgust and the rubber hand illusion: A registered replication report of Jalal, Krishnakumar, and Ramachandran (2015). *Cognitive Research: Principles and Implications*, Springer Nature, 3(1), 1-11. 2) Meng, X., Nakawake, Y., Nitta, H., Hashiya, K., & Moriguchi, Y. (2019). Space and rank: Infants expect agents in higher position to be socially dominant. *Proceedings of the Royal Society B: Biological Sciences*, The Royal Society, 286(1912), 20191674. 3) Nitta, H., & Hashiya, K. (2021) “Self-face representation in the first year of life: A study using the morphing technique. *Infant Behavior and Development, Elsevier*, 62, 101479. **【学会発表】** 1) Nitta, H., & Hashiya, K. (2018). Discrimination between morphed face and novel face in infancy, 21st ICIS Biennial Congress, Philadelphia, the United States, June 30-July3. (Poster Presentation) 2) Nitta, H., & Hashiya, K. (2018). Discrimination between one’s own face and self resemble face in infancy, 25th Biennial Meeting of the International Society for the Study of Behavioral Development, Queensland, Australia, July 15-19. (Poster Presentation) 3) Nitta, H., & Hashiya, K. “Development of self-face representation in 12-month-old infants: A study with the preferential looking paradigm using the morphing technique.” BCCCD 2020, Budapest, Hungary, January 2020. (Poster Presentation) 4) 新田博司・富田青斗・張伊・周欣欣・山田祐樹 (2017), ラバーハンドの嫌悪感, 日本心理学会第81 回大会, 久留米シティプラザ, 2017, 9 月 22-24 日 5) 新田博司・宇土裕亮・茶谷健悟・橋彌和秀 (2022), 幼児期における自己顔処理と自己参照課題の関連, 第 33 回日本発達心理学会, 3 月 6 日, 2022 年. 他						

教員名	古田 吉史	所属	生活科学科 食物栄養専攻	職名	教授	学位	博士（農学）
最終学歴	平成 21 年 九州大学大学院 生物資源環境科学府 生物機能科学専攻 博士課程修了 （社会人博士課程）						
研究分野 ・テーマ	・微生物を利用した食品加工技術の開発（発酵による機能性物質の生産） ・有用微生物の探索、育種 ・九州北部の伝統食である『糠漬け(糠床)』に関する研究とモノ造り						
学会活動	日本生物工学会、日本農芸化学会、 北九州小倉糠床・糠炊き研究会顧問						
研究成果 の 公 表	【著書】 1）最新食品学　総論・各論　第 5 版（共著）講談社. 2021 年 【学術論文】 1）人工胃液・腸液耐性を有する乳酸菌の発酵食品への応用（単著） 精華女子短期大学研究紀要. Vol. 48, 41-47. 2022 年 2）熟成糠床に浸漬した野菜表面に接着する人工胃液・腸液耐性を有する 乳酸菌の分離（単著）　精華女子短期大学研究紀要. Vol. 47, 17-22. 2021 年 3）熟成糠床から人工胃液・腸液耐性を有する乳酸菌の分離（単著） 精華女子短期大学研究紀要. Vol. 46, 55-60. 2020 年 4）糠床への浸漬による野菜に付着する微生物叢の変化（共著）. 西南女学院大学紀要. Vol. 21, 145-151. 2017 年 5）Biosurfactant-producing yeasts widely inhabit various vegetables and fruits.（共著） Biosci.　Biotechnol. Biochem., 78, 516-523 (2014) 6）乳酸菌を利用した焼酎蒸留粕の高付加価値素材への転換プロセスの構築（共著）. 生物工学会誌, 88, 114-120. 2010 年　『第 18 回生物工学技術賞』受賞 7）Utilization of Fermented Barley Extract Obtained from a By-product of Barley Shochu for Nisin Production.（共著） J. Biosci. Bioeng., 106, 393-397 (2008)　『第 17 回生物工学論文賞』受賞 【特許】 1）嫌気性菌の連続培養法. 特許 3958089. 2007 年 2）大麦焼酎蒸留残液を培地に使用したナイシンを著量含有する発酵生産物の製造方法. 特許 3672258. 2005 年 3）大麦焼酎蒸留残液から分取した乳酸菌用培地. 特許 3527661. 2004 年 【学会発表・その他活動】						

	1)　NHK 総合番組「うまいッ！」へ糠床の専門家として出演 2018 年 1 月 14 日放送 2)「発酵よもやま話」北九州小倉糠床、糠炊き研究会主催市民ファーラム 2017 年 10 月 3)「糠床浸漬による野菜に付着する微生物叢の変化」 第 69 回日本生物工学会本大会　2017 年 9 月 4)「発酵大麦が有する機能性の紹介～微生物からヒトまで～」 九州地域バイオクラスター推進協議会プレゼン研修会　2011 年 9 月 5)「Novel conversion processes with lactic acid bacteria from Shochu Kasu into valuable materials」 2009 韓国 KSBB 国際シンポジウム　2009 年 11 月

教員名	葉　山泉	所属	生活科学科 食物栄養専攻	職名	教授	学位	医学博士
最終学歴	昭和 44 年　久留米大学医学部卒業						
研究分野 ・テーマ	高齢者の骨折の治療法の臨床開発研究						
学会活動	日本整形学会、西日本整形・災害外科学会						
研究成果 の 公 表							

教員名	村瀬　英雄	所属	生活科学科 食物栄養専攻	職名	教授	学位	
最終学歴	昭和 44 年　　長崎県立猶興館高等学校卒業						
研究分野 ・テーマ	和、洋、中の料理の基礎を通じ、栄養士としての料理の基礎，及び実習において調理の手法や、栄養素の変化など調理能力の向上を目的とした研究						
学会活動	日本エスコフィエ協会会員、フランス料理アカデミー協会日本支部正会員、 トックブランシュ国際倶楽部会員、ユーロガストロミー協会会員						
研究成果 の 公 表	1985 年全日本司厨士協会西日本大会にてオードブルショープレートグランプリ受賞 1988 年世界食の祭典札幌世界大会にて西日本代表で、銀メダル受賞 1988 年コミテナショナルガストロノームフランセーズ会員 1996 年レ.ザ，ミ、ド、キュルノンスキー会員 1999 年日本エスコフィエ協会正会員デシーブル受賞 2002 年フランス料理アカデミー協会日本支部正会員 2004 年ユーロガストロミー協会会員 2005 年日本鉄板協会会員 2007 年トックブランシュ国際倶楽部会員						

教員名	武部幸世	所属	生活科学科 食物栄養専攻	職名	准教授	学位	人間環境学修士
最終学歴	平成 17 年　九州大学大学院人間環境学府行動システム専攻修士課程修了						
研究分野 ・テーマ	「食行動に関する研究」食行動変容の起因要因について研究						
学会活動	日本栄養士会、日本栄養改善学会、日本栄養・食糧学会、健康支援学会、 産業栄養指導者会						
研究成果 の 公 表	著書 １）「短期大学教育の新たな地平」、共著、北樹出版、2018 年 6 月 ２）「ライフステージ実習栄養学－健康づくりのための栄養と食事―第 7 版」、共著、医歯薬出版、2021 年 1 月 ３）「子どもの食と栄養」、共著、光生館、2021 年 8 月 ４）「イラスト　調理科学」共著、東京教学社、2023 年 3 月 学会発表 １）「女子学生の食行動改善に対するセルフ・エフィカシー尺度の作成と食行動変容ステージとの関係」,日本栄養・食糧学会　2010 年 5 月 論文 １）「女子学生の食行動改善に対するセルフ・エフィカシー尺度の作成と食行動変容ステージとの関係」,日本栄養・食糧学会　2010 年 5 月 ２）「食物アレルギーとその対応食について」,共著,精華女子短期大学研究紀要,第 39 号,2013 年 3 月 ３）「女子高校生の食の現状について」,共著,精華女子短期大学紀要,第 40 号,2014 年 3 月 ４）「校外実習（病院実習）における学生の自己評価と実習施設の評価および課題について」，単著，精華女子短期大学研究紀要，第 46 号，2020 年 3 月 報告 １）「中学－高校－短大の連携事業を通したキャリア教育に関するシンポジウム報告」,共著，短期大学コンソーシアム九州紀要,Vol.1,2011 年 3 月 研究ノート １）「精華女子短期大学生の学びと学生生活に関する研究」,共著,精華女子短期大学研究紀要,第 41 号,201						

教員名	阪田　直美	所属	生活科学科 食物栄養専攻	職名	講師	学位	教育学修士 家政学士
最終学歴	福岡教育大学大学院 教育学研究科 家政教育専攻 修了						
研究分野・テーマ	栄養学・栄養教育・食品の機能性に関する研究 食育の情報発信とその方法及びメニュー考案について						
学会活動	日本栄養改善学会、日本健康科学学会、日本健康教育学会、日本食品科学工学会、 日本栄養士会 、福岡県栄養士会						
研究成果の公表	学術論文 1)調理済み、半調理済み食品の利用状況について.精華女子短期大学紀要,第 20 号,1993 年(単著) 2）食品重量に関する研究.精華女子短期大学紀要,第 22 号,1996 年（共著） 3)女子短大生への栄養教育の効果.精華女子短期大学紀要,第 24 号,1998 年（共著） 4)女子短大生とその母親の食生活の関連性.精華女子短期大学紀要,第 25 号,1999 年（共著） 5)コンピュータを用いた栄養教育に関する研究.福岡教育大学大学院修士論文,2001 年(単著) 6)女子学生の食習慣と健康意識.精華女子短期大学紀要,第 30 号,2004 年(単著) 7)食生活に起因するストレス緩和に関する考察.精華女子短期大学紀要,第 32 号,2006 年(共著) 8)栄養教育実習に関する研究.精華女子短期大学研究紀要,第 38 号,2012 年（単著） 9)食物アレルギーとその対応食について.精華女子短期大学研究紀要,第 39 号,2013 年（共著） 10)女子高校生の食の現状について.精華女子短期大学研究紀要,第 40 号,2014 年（共著） 11)機能性パン作りに関する研究.日本食品科学工学会誌,2015 年（共著） 12)女子学生のハチミツに対する食意識調査及び活用方法について.日本栄養改善学会誌,2015 年（共著） 13)機能性パン作りに関する研究.精華女子短期大学研究紀要,第 42 号,2016 年（共著） 14)女子学生のハチミツに対する食意識調査及び活用方法について.精華女子短期大学研究紀要,第 42 号,2016 年（共著） 15)栄養教育実習の取り組みについて.精華女子短期大学研究紀要,第 42 号,2016 年（共著） 16)機能性パン作りに関する研究 2 報.精華女子短期大学研究紀要,第 43 号,2017 年（共						

著）
17)栄養教育実習の取り組みについて 2 報.精華女子短期大学研究紀要,第 45 号,2019 年（単著）
18)栄養教育実習の取り組み.健康教育学会誌,2019 年（単著）
19）機能性パン作りに関する研究 3 報.精華女子短期大学研究紀要,第 46 号,2020 年（単著）
20）地域貢献と学修成果.精華女子短期大学研究紀要,第 47 号,2021 年（単著）

学会発表
1)女子短大生の調理済み食品の利用行動と利用意識の関連性について.日本栄養改善学会, 1999 年,10 月
2)栄養管理支援システムの開発と栄養教育における有効性について.日本栄養改善学会, 2001 年,10 月
3)女子学生の食習慣と健康意識について.日本健康科学学会,2004 年,9 月
4)女子学生の食習慣について.福岡県栄養改善学会,2007 年,9 月
5)食育活動における取り組み～実践事例～.日本栄養改善学会,2010 年,9 月
6)機能性パン作りに関する研究.日本食品科学工学会,2015 年,8 月
7)女子学生のハチミツに対する食意識調査及び活用方法について.日本栄養改善学会,2015 年,9 月
8）栄養教育実習の取り組み.健康教育学会,2019 年,6 月
9）食育活動の取り組み～中学生期～ .日本栄養改善学会,2022 年,9 月

公開講座
1）食育学習会．春日中学校．2012 年 11 月
2)「食物とアレルギーについて」（社団法人全国栄養士養成施設協議会後援, 2012 年 12 月）
3）食に関する指導．お弁当の日．春日中学校．2013 年 3 月
4)「親子食育講座」（一般社団法人全国栄養士養成施設協会後援，2013 年 8 月）
5）食育学習会．春日中学校．2013 年 11 月
6）食に関する指導．お弁当の日．春日中学校．2014 年 3 月
7)「親子食育講座」（公益社団法人日本フードスペシャリスト協会後援，2014 年 8 月）
8）食育学習会．春日中学校．2014 年 12 月
9）食に関する指導．お弁当の日．春日中学校．2015 年 3 月
10)彩り豊かにバランスの良い食事～お弁当づくりを通して～．公益社団法人 福岡県栄養士会．2015 年 9 月
11)食育学習会．春日中学校．2015 年 11 月
12)食に関する指導．お弁当の日．春日中学校．2016 年 3 月
13)「親子食育講座」（公益社団法人日本フードスペシャリスト協会後援，2016 年 8 月）

	14)食育学習会．春日中学校．2016 年 12 月 15)食に関する指導．お弁当の日．春日中学校．2017 年 3 月 16)「親子食育講座」南区こども大学 2017 年 8 月 17)「いきいきシニアの料理教室」(一般社団法人全国栄養士養成施設協会) 2017 年 9 月 18）食育学習会．春日中学校．2017 年 12 月 19）食に関する指導．お弁当の日．春日中学校．2018 年 2 月 20)「親子食育講座」南区こども大学 2018 年 8 月 21)「いきいきシニアの料理教室」2018 年 9 月 22）食育学習会．春日中学校．2018 年 12 月 23)「親子食育講座」南区こども大学 2019 年 8 月 24)「いきいきシニアの料理教室」2019 年 9 月 25）食育学習会．春日中学校．2019 年 12 月 26）食育学習会．那珂川北中学校．2020 年 12 月 27）食育学習会．春日中学校．2021 年 11 月 28）食育学習会．那珂川北中学校．2021 年 12 月 29）食育学習会．那珂川北中学校．2022 年 11 月 その他 １）給食管理実習ノート.コロニー印刷.1991 年~2005 年(共著) ２）栄養教育実習ノート.コロニー印刷.2016 年～2017 年(共著)

教員名	水谷　玲香	所属	生活科学科 食物栄養専攻	職名	助教	学位	栄養科学博士
最終学歴	中村学園大学大学院栄養科学研究科博士後期課程　修了						
研究分野 ・テーマ	生活習慣病の危険因子と食事・運動療法、スポーツ栄養に関する研究						
学会活動	日本透析医学会、日本総合健診医学会、日本栄養士会、福岡県栄養士会						
研究成果 の 公 表	（学術論文） ・ジュニアテニス選手の栄養素等摂取状況（共著）：精華女子短期大学研究紀要 第 36 号, 2010 ・女子高校生の食の現状について（共著）：精華女子短期大学研究紀要 第 40 号, 2014 ・機能性パン作りに関する研究（共著）：精華女子短期大学研究紀要 第 42 号,2016 ・保温鍋を使用した加熱調理の指導の試み（共著）：精華女子短期大学研究紀要 第 44 号, 2018 ・Physical Activity and Blood Lipids and Lipoproteins in Dialysis Patients.(共著) ; Avid Science：In Press, 2019						

教員名	坂本　純	所属	生活科学科 食物栄養専攻	職名	助教	学位	学士（食生活健康）
最終学歴	活水女子大学健康生活学部食生活健康学科						
研究分野 ・テーマ	小学生の食育について						
学会活動							
研究成果 の 公 表	研究ノート 「女子高校生の食の現状について」,共著,精華女子短期大学紀要,第 40 号,2014 年 3 月						

教員名	西田　晃子	所属	生活科学科 食物栄養専攻	職名	助手	学位	短期大学士
最終学歴	平成 21 年　精華女子短期大学生活科学科食物栄養専攻卒業						
研究分野 ・テーマ	臨床栄養学						
学会活動							
研究成果 の 公 表							

教員名	北　友里奈	所属	食物栄養科	職名	助手	学位	学士（栄養学）
最終学歴	平成 29 年　西南女学院大学社会福祉学部栄養学科　卒業						
研究分野・テーマ	臨床栄養学、調理学						
学会活動							
研究成果の公表							

教員名	庄 野　千 鶴	所属	生活科学科 生活総合 ビジネス専攻	職名	教　授	学位	博士(農学)
最終学歴	平成 12 年 九州大学大学院博士後期課程農学研究科農政経済学専攻単位取得後退学						
研究分野 ・テーマ	食料消費分析・農産物貿易						
学会活動	最近の学会活動 九州農業経済学会、日本フードシステム学会 平成 30 年度-令和 3 年度日本フードシステム学会第 13 期理事 2017 年度日本フードシステム学会福岡大会・大会実行委員(平成 28 年 9 月 29 日～平成 29 年 06 月 11 日) 平成 29 年 6 月 11 日公開地域シンポジウム司会進行（於：中村学園大学） 平成 24 年度『食農資源経済論集』投稿論文審査協力, 平成 17 年度『フードシステム研究』投稿論文審査協力						
研究成果 の 公 表	【著書】 1)ﾊﾟｿｺﾝ･ﾋﾞｼﾞﾈｽ文書処理,共著,平成 06 年 10 月,嵯峨野書院 2)現代経済ｼｽﾃﾑの諸問題,共著,平成 09 年 07 月,九州大学出版会 3)ｸﾞﾛｰﾊﾞﾙ経済下の地域構造,共著,平成 13 年 03 月,九州大学出版会 4)WTO と国際乳製品貿易,単著,平成 13 年 07 月,農林統計協会 5)短期大学卒業者のｷｬﾘｱ形成に関するﾌｧｰｽﾄ･ｽﾃｰｼﾞ論的研究,共著,平成 19 年 03 月発行:安部恵美子長崎短期大学 6)短期大学ｽﾃｰｸﾎﾙﾀﾞｰ調査ﾊﾝﾄﾞﾌﾞｯｸ-短大教育の飛躍を目指して-,共著,平成 20 年 03 月財団法人短期大学基準協会 【学術論文】 1)情報管理能力養成のための教材活用,共著,平成 04 年 04 月,精華女子短期大学紀要第 19 号 2)自由貿易下における生乳市場空間均衡分析(その 1),単著,平成 07 年 03 月,精華女子短期大学紀要第 21 号 3)変分不等式問題による単位取引費用減少下の空間均衡ﾓﾃﾞﾙ,単著,平成 08 年 03 月,精華女子短期大学紀要第 22 号 4)関税を導入した国際貿易空間均衡ﾓﾃﾞﾙの展開-完全競争市場の場合-,共著,平成 11 年 03 月,九州大学農学部学芸雑誌第 53 巻 1-4 合併号 5)関税を導入した国際貿易空間均衡ﾓﾃﾞﾙの展開-寡占市場の場合-,共著,平成 11 年 11 月,九州大学農学部学芸雑誌第 54 巻 第 1･2 号 6)関税を導入した国際貿易空間均衡ﾓﾃﾞﾙへの輸出割当と最低輸出価格の導入-完全競争市場及び寡占市場-,共著,平成 12 年 03 月,九州大学農学部学芸雑誌第 54 巻 第 3･4 号 7)Will China's Diet follow Western Diets ?,共著,July,2000,Agribusiness,Vol.16/Number3 8)国際貿易空間均衡ﾓﾃﾞﾙにおける線形相補性問題の解の存在とそのｱﾙｺﾞﾘｽﾞﾑについて,共著,平成 12 年 08 月,九州大学農学部学芸雑誌第 55 巻第 1 号 9)関税を導入した国際貿易空間均衡ﾓﾃﾞﾙへの輸出保持金の導入と国際乳製品市場へのその適用-完全競争市場及び寡占市場の場合-,共著,平成 12 年 11 月,九州大学農学部学芸雑誌第 55 巻第 2 号 10)日別 POS ﾃﾞｰﾀによる牛乳需要分析,共著,平成 12 年 12 月,ﾌｰﾄﾞｼｽﾃﾑ研究第 7 巻 2 号 11)生活総合ﾋﾞｼﾞﾈｽ専攻におけるｲﾝﾀｰﾝｼｯﾌﾟの取組,共著,平成 25 年度,精華女子短期大学研究紀要第 39 号 12)短期大学教育における学習成果の評価方法に関する検討,共著,平成 30 年度,精華女子短期大学研究紀要第 45 号 13)短期大学における退学思考に関する一考察,共著,平成 30 年度,精華女子短期大学研究紀要第 45 号 【報告書】 1)将来の食料需給における日本水産業の役割-世界食料需給の動向と見通し-(初年度分析結果),共著,平成 08 年 06 月,東京水産振興会「第 I 部第 2 章 FAO による 2010 年の見通し」pp27-pp46 の 20 頁担当 2)将来の食料需給における日本水産業の役割-世界食料需給の動向と見通し-(初年度分析結果),共著,平成 08 年 06 月,東京水産振興会「第 I 部第 7 章 食料消費動向の分析と 水産物需給」pp115-pp136 の 22 頁担当 3)将来の食料需給における日本水産業の役割-世界食料需給の動向と見通し-(最終報告),共著,平成 10 年 03 月,東京水産振興会 4)自由市場下の乳価変動ﾘｽｸ推定ﾓﾃﾞﾙと日別 POS ﾃﾞｰﾀによる牛乳需要分析,共著,平成 11 年 03 月,中央酪農会議						

	【研究ﾉｰﾄ】 1)台湾における食料消費ﾊﾟﾀｰﾝの変化について,単著,平成 11 年 03 月,精華女子短期大学紀要(現精華女子短期大学研究紀要)第 23 号 2)主成分分析による中国食料消費ﾊﾟﾀｰﾝに関する一考察,単著,平成 18 年 03 月,精華女子短期大学研究紀要第 32 号 3)卒業生ｱﾝｹｰﾄ調査からみる女性のﾗｲﾌｺｰｽに関する一考察,単著,平成 20 年 03 月,精華女子短期大学研究紀要第 33･34 号 4)卒業生調査から見る職業別の経年変化に伴うｺﾝﾋﾟﾃﾝｼｰについて,単著,平成 20 年 03 月,精華女子短期大学研究紀要第 33･34 号 5)中国における地域別食料消費ﾊﾟﾀｰﾝに関する一考察,単著,平成 21 年 03 月,精華女子短期大学研究紀要第 35 号 6)生活総合ﾋﾞｼﾞﾈｽ専攻におけるｲﾝﾀｰﾝｼｯﾌﾟの取組,共著,平成 25 年 03 月,精華女子短期大学研究紀要第 39 号 7)ｶﾘｷｭﾗﾑﾏﾄﾘｯｸｽによる学修成果のﾋﾞｼﾞｭｱﾙ化について(報告書),共著,平成 27 年 03 月,精華女子短期大学研究紀要第 41 号 8)事例研究報告:ｲﾝﾀｰﾝｼｯﾌﾟをとおした学修効果測定に関する一考察,共著,平成 28 年 03 月,精華女子短期大学研究紀要第 42 号 【研究報告】 1)我が国における牛乳･乳製品の需要分析,共同,平成 10 年 10 月,九州農業経済学会 2)関税を導入した国際貿易空間均衡ﾓﾃﾞﾙの展開 -完全競争市場の場合-,共同,平成 10 年 11 月,TEA 秋期大会 3)「短期大学卒業生調査」中間報告,共著,平成 16 年 3 月 1 日,短期大学将来構想に関する研究会 【その他】 1)中国における牛乳･乳製品動向-食品のなかの位置づけ-(上),単著平成 11 年 04 月 19 日農林経済(第 9173 号),時事通信社 2)中国における牛乳･乳製品動向-食品のなかの位置づけ-(下)単著平成 11 年 05 月 06 日農林経済(第 91763 号･合併号),時事通信社 3)牛乳･乳製品をめぐる国際競争の現状と展望,単著,平成 12 年 06 月 15 日,食品工業 Vol.43 No.11 4)WTO 体制下の国際乳製品貿易-競争と保護のﾊﾞﾗﾝｽを考える-,単著,平成 13 年 11 月 01 日,別冊 Dairy Japan 牛乳生活情報 5)短大卒業生の進路･ｷｬﾘｱ形成と短大評価,共著,平成 17 年 02 月 01 日,短期大学基準協会発行 6)ｶﾘｷｭﾗﾑﾏﾄﾘｯｸｽによる学修成果のﾋﾞｼﾞｭｱﾙ化について(報告書),共著,平成 27 年 03 月,精華女子短期大学研究紀要第 41 号 7)寄稿:精華女子短期大学･ｱｸﾃｨﾌﾞ･ﾗｰﾆﾝｸﾞとその評価への取り組み,平成26年度,一般財団法人全国大学実務協会会報 第 12 号 pp7 8)ｲﾝﾀｰﾝｼｯﾌﾟをとおした学修効果測定に関する事例報告,共著,平成 29 年 12 月 17 日,日本ｲﾝﾀｰﾝｼｯﾌﾟ学会九州支部第 20 回研究会(短期大学ｺﾝｿｰｼｱﾑ九州合同研究会) 9)学長教育研究論文賞受賞「事例研究報告:ｲﾝﾀｰﾝｼｯﾌﾟをとおした学修効果測定に関する一考察」,共著,平成 31 年 1 月 23 日 【協力】 ①委託研究:こんにゃく健康ﾊﾟｳﾀﾞｰ「ｺﾝｼﾞｬｯｸ･ﾊﾟｳﾀﾞｰの開発研究事業」,平成 20 年,福岡県産炭地域振興ｾﾝﾀｰ新産業創造等基金支援事業 ②九州創発塾 2009~7 つのｼﾅｼﾞｰが切り拓く未来へ~第 3 回佐賀大会,中小企業基盤整備機構九州支部特別講演『ｿﾌﾄﾊﾟﾜｰで繋ぐ新しい九州』ﾊﾟﾈﾘｽﾄ,平成 21 年,主催:九州創発塾(佐賀新聞社,南日本新聞社,西日本新聞社,長崎新聞社,熊本日日新聞社,大分合同新聞社,宮崎日日新聞社),佐賀市ﾏﾘﾄﾋﾟｱ ③RKB『今日感ﾃﾚﾋﾞ』協力出演　平成 21 年 09 月 30 日

教員名	虎本　和三	所属	生活科学科 生活総合 ビジネス専攻	職名	教授	学位	文学士
最終学歴	西南学院大学文学部外国語学科英語専攻						
研究分野 ・テーマ	特別活動（学校行事等）を活用した道徳教育の充実 ～教員の指導力向上をめざして～						
学会活動	平成３０年度福岡県公立高等学校等校長研修会						
研究成果 の 公 表	教育の中核をなす徳育について、道徳教育の指導内容項目が、各学校での教育活動のどの場面で実践されているかをアンケートにより集約し、本県道徳教育の改善の一役とすることを目的とした。 平成 28 年度から 3 年間にわたる本研修委員会の年次研究発表の効果があってか、本調査では学校行事ごとの重点項目を設定することで、全体的に内容項目のバランスが改善されていることが明示された。 この研究により、学習指導要領改訂に伴う「特別な教科　道徳」を先行実施している中学校からも大変参考となる情報を得ることができ、今後の高等学校での取組に大きな影響をもたらすことが期待できた。						

教員名	金　戊丁	所属	生活科学科 生活総合 ビジネス専攻	職名	講師	学位	修士（経営学）
最終学歴	西南学院大学大学院経営学研究科博士後期満期退学						
研究分野 ・テーマ	観光経営学、観光社会学、都市観光の活性化						
学会活動	東アジア学会、日本観光協会、福岡デザインリーグ、 日本観光ホスピタリティ教育学会、観光学術学会						
研究成果 の 公 表	著書 「九州経済白書 2013：アジア最前線～九州のグローバル戦略」（2013）九州経済調査協会 研究報告書 「福岡・九州の観光側面からみた釜山の観光資源と魅力性」（2012）韓国釜山発展研究院 「都市観光の側面からみた持続可能な福岡の観光資源とその魅力性」（2013）福岡アジア都市研究所 「九州の地方都市における国際観光」 「東北アジアクルーズ市場と都市観光の活性化」（2013）東アジア学会 「国際間都市観光における北九州市の現況と問題点」（2014）東アジア学会 「九州の地方都市における国際観光」（2015）福岡大学寄付研究連携「新殖産研」講座 「国際間都市観光における北九州市の現況と問題点」（2018）精華女子短期大学紀要大 44 号 「オーバーツーリズムの登場」（2019）精華女子短期大学紀要大 45 号 「短期大学における退学思考に関する一考察」（2019 共著）精華女子短期大学紀要大 45 号 「短期大学教育における学習成果の評価方法に関する検討」（2019 共著）精華女子短期大学紀要第 45 号 「インターンシップの学修成果に関する一考察」（2019 共著）精華女子短期大学研究紀要第 46 号 「日韓両国における観光政策と変数」（2020）精華女子短期大学研究紀要第 46 号 「コロナ時代の観光」（2021）精華女子短期大学研究紀要第 47 号						

教員名	藤　久士	所属	生活科学科 生活総合 ビジネス専攻	職名	講師	学位	修士（経済学）
最終学歴	京都産業大学大学院経済学研究科修士課程修了						
研究分野 ・テーマ	教育社会学・ビジネス実務・商業教育						
学会活動	日本商業教育学会						
研究成果 の 公 表	【学術論文】 1.「高等学校商業科における科目「商品開発」を通じたキャリア教育の実践について」（共著）『かやのもり』研究報告　第 30 号,近畿大学産業理工学部,pp.12-19　2019 年 6 月 2.「若年者の自県大学進学志向の要因分析―進路指導・キャリア教育上の視点―」（共著）『かやのもり』研究報告　第 31 号,近畿大学産業理工学部,pp.49-56　2020 年 6 月 3.「高等学校学習指導要領におけるマネジメント分野科目についての理解」（共著）『かやのもり』研究報告　第 32 号,近畿大学産業理工学部,pp.　47 -52　2021 年 6 月 4.「鹿児島県における新規高卒者の大学進学および就職の現状」（単著）『精華女子短期大学紀要』第 48 号,pp.31-39　2022 年 3 月 5.「リカレント教育を推進するための方策～コロナ禍におけるオンライン教育の活用をヒントに～」（単著）『精華女子短期大学紀要』第 49 号,pp.13-21　2023 年 3 月						

教員名	本井　碧	所属	生活科学科 生活総合 ビジネス専攻	職名	講師	学位	博士（芸術工学）
最終学歴	平成 27 年　九州大学大学院統合新領域学府ユーザー感性学専攻　博士後期課程修了						
研究分野・テーマ	生理人類学・人間工学・生理心理学・感性科学 生体情報を用いたヒトの生理心理反応及び快適感の評価						
学会活動	日本生理人類学会（平成 27 年 4 月～評議員、平成 29 年 4 月～体温調節研究部会幹事） 日本人間工学会						
研究成果の公表	【著書】 1. 日本生理人類学会 「人間科学の百科事典」 （分担執筆，範囲:「共感覚」pp.277-278）丸善出版 2015 年 1 月 2. 日本生理人類士認定委員会「新編　生理人類士入門」（分担執筆，範囲 9.8 「心理の評価」pp.253-257）　日本生理人類士認定委員会 2022 年 2 月 【主な学術論文】 1. Motoi, M., Egashira, Y., Nishimura, T., et al., (2014). Time window for cognitive activity involved in emotional processing. J Physiol Anthropol, 33:21 2. Motoi, M., Nishimura, T., Egashira, Y., et al. (2016). Relationship between mitochondrial haplogroup and physiological responses to hypobaric hypoxia. J Physiol Anthropol, 35:12. 3. Nishimura, T., Katsumura, T., Motoi, M., et al. (2017). Experimental evidence reveals the UCP1 genotype changes the oxygen consumption attributed to non-shivering thermogenesis in humans. Scientific reports, 7:5570. 4. 岸田文，江頭優佳，本井碧，他 （2019）避難所に対するネガティブな先入観と性格特性の関連．地区防災計画学会誌. 16, 55 – 63. 5. Xiao X., Mizukami, S., Arima, K., Morikawa, K., Motoi, M., et al. (2022) Association of FTO genotype with obesity and bone health among communitydwelling adults; Goto Island study on bone health. Acta medica Nagasakiensia, 65(3), 77-87. 6. 本井碧，綿貫茂喜.（2022）国内外の風景画像に対する脳活動の差異．精華女子短期大学研究紀要 48 号, 15-22. 7. 本井碧.（2023）新型コロナウイルス感染症（COVID-19）流行下における女子短期大学生のストレス要因と精神的健康の関連．精華女子短期大学研究紀要 49 号, 23-29 8. 草野洋介，有馬和彦，水上諭，西村貴孝，本井碧，青柳潔.（2023）農村における健康寿命延伸のために．九州農村医学会雑誌 30-31 号 40-48 【主な学会発表】 1. 本井碧，岸田文，綿貫茂喜「情動予期時の事象関連電位とセロトニントランスポーター遺伝子多型の関連」日本生理人類学会第 78 回大会　口頭発表　2018 年 10 月※優秀発表賞受賞 2. Motoi M, Toyoshima H, Nakayama K, et al.「Changes in blood component and DNA methylation patterns in healthy men exposed hypobaric hypoxia」The 14th International congress of physiological Anthoropology ポスター発表 2019 年 9 月※Consolation Prize 3. 本井碧，綿貫茂喜「紙巻たばこ及び加熱式たばこを使用した時の生理心理的効果」第 49 回日本神経精神薬理学会 2019 年 10 月 ※招待有り 4. 中林暉裕，江崎俊介，曽我浩二，仲間大哲，河野寛之，伊藤貴士，本井碧，西村貴孝 「入浴による唾液中コルチゾール及び s-IgA の変動とその個人差について」日本生理人類学会第 83 回大会 ポスター発表 2022 年 10 月						

教員名	角　眞由美	所属	専攻科	職名	教授	学位	学士（福祉経営学）
最終学歴	平成３０年　日本福祉大学卒業						
研究分野・テーマ	研究分野：介護福祉学、地域福祉学、生活支援学、介護技術学 テーマ：介護福祉士という専門知識と技術を学び、質の向上と専門職としての社会的役割を果たすことの意義とは何か。地域社会で尊厳を護りながら、その人らしい日常生活を送るための支援とは何かをテーマとし研究に取り組んでいる。						
学会活動	介護福祉学会、地域福祉学会、介護福祉教育学会、日本生活支援学会、日本在宅ケア学会						
研究成果の公表	学術研究 ・「情報を学びに繋げる学生教育の一考察　～図書館とインターネット活用～」（単著） 精華女子短期大学研究紀要　第 46 号、PP77~88、令和 2 年 3 月 ・「介護福祉士の養成と充足率向上への取り組み」（単著） ～福岡県介護福祉士養成校学生主体の「ReLife」活動について～ 精華女子短期大学研究紀要　第４７号、PP35~45、令和３年３月 ・「情報を学びにつなげる学生教育―図書館活用の意義―」 第 27 回日本介護福祉士教育学会　分科会発表　令和４年３月						

教員名	大川　絹代	所属	専攻科	職名	教授	学位	修士（教育学）
最終学歴	鳴門教育大学大学院(修士課程)学校教育研究課障害児教育専攻修了						
研究分野・テーマ	障害児・者支援、権利擁護に関する研究。						
学会活動	日本社会福祉学会、日本ソーシャルワーク学会　日本公認心理師学会 社会福祉士学会（日本社会福祉士会）						
研究成果の公表	著書 「養護原理」ナカニシヤ出版、2010、　昇地勝人、進藤啓子、田中麻里　編 第８章　執筆担当 「社会的養護内容」ナカニシヤ出版、2013、昇地勝人、進藤啓子、田中麻里　編 第１０章　執筆担当 「よりそい 支える 社会的養護Ｉ」教育情報出版、2019 監修：中山正雄　編著：浦田雅夫 Chapter 4 -13　執筆担当 「第２版　２１世紀の現代社会福祉用語辞典」学文社、2019　九州社会福祉研究会編、 分筆、 「新・子ども理解と援助-その理論と方法-」教育情報出版　2021　入江慶太　編著 第 15 章　執筆担当 論文 「介護実習における『尊厳』『自立』の学びについての一考察」精華女子短期大学研究紀要第 49 号 ｐ31-36						

教員名	緒方まゆみ	所属	専攻科	職名	特任教授	学位	家政学士 福祉経営学士
最終学歴	日本女子大学家政学部児童学科卒業 日本福祉大学福祉経営学部医療・福祉マネジメント学科卒業						
研究分野・テーマ	介護過程の展開方法 より良い介護をするために最も重要な「介護過程」を、どのように展開していくことが利用者の QOL 向上に必要なのかを研究する。利用者理解のために必要なこと、自己覚知・コミュニケーション能力・アセスメント力・プランニングから評価・考察力の総合マネジメント能力の構築を学生に教授していく。						
学会活動	日本介護福祉教育学会、日本介護福祉学会、日本生活支援学会						
研究成果の公表	【学会発表】 ・「キャリア教育と職業教育の評価」～PCF キャリア形成プログラムの取り組み～ （共同研究）平成 23 年度全国教職員研究会（別府コンベンションセンター　2011 年 11 月 ・「介護過程の展開～学生アンケートよりアセスメントの教育方法を探る」 平成 30 年度全国教職員研究会（宮崎市民プラザ）　2018 年 11 月 【本学紀要掲載】 ・「1 年課程の介護福祉士養成施設における PCF キャリア形成プログラムの取り組み」 （第 38 号） ・「『介護過程の展開』の教授法に関する一考察～新カリキュラム後の学生の変化～」（第 39 号） ・「地域コミュニティーとの関わりにおける学びと有意性について」 ～出前せいかよかよか倶楽部活動を通して～　（第 41 号） ・「介護過程の展開～学生アンケートよりアセスメントの教育方法を探る」（第 45 号） 【雑誌掲載】 ・「地域ケアリング」月刊誌　2021 年 9 月号　発行：株式会社北隆館 介護人材育成講座　第１７２回「介護過程の教育法について」P29～P36 【テキスト執筆】 ・「イラスト・子どもの保健・健康と安全」　共著　2023 年 4 月 1 日発行 第 1 章　第 2 章　第 10 章担当　　発行：東京教学社						